令和７年度　第１回理事会

日　時：令和７年４月４日（金）16:00～

場　所：森林総合研究所（つくば市）特別会議室

Ⅰ．報　告

１．令和６年度コンプライアンス合同報告会について（開催報告）
［コンプライアンス推進室］

２．令和７年度　機構会議等の日程について［総合調整室］

３．令和６年度の特定母樹の指定及び優良品種の開発について［林木育種センター］

４．令和６年度における林木遺伝子銀行110番の実施状況について
［林木育種センター］

Ⅱ．その他

１．今後の主な会議・行事予定について

２．主要行事

３．森林総合研究所が広報普及した主な研究成果等について

Ⅰ－１

理 事 会 資 料
令和７年４月４日
コンプライアンス推進室

令和６年度コンプライアンス合同報告会について（開催報告）

このことについて、下記のとおり開催しましたので、お知らせします。

１．開催日時　　令和７年３月１２日（水）

２．開催場所　　森林総合研究所特別会議室　（Web 会議併用）

３．出 席 者　　浅野理事長（総括推進責任者）、小平理事（法令遵守担当）、高橋監事、渡邉監事
【森林総合研究所等コンプライアンス推進委員会】
宇野理事、亘コンプライアンス推進室長、並木コンプライアンス推進室員
【森林整備センターコンプライアンス推進委員会】
関口理事、伊東監査・コンプライアンス室長、毛谷村参事
【森林保険センターコンプライアンス推進委員会】
宇野理事、馬場森林保険センター所長、海野リスク管理室長、遠山係長

４．議　　事　　各コンプライアンス推進委員会から、令和６年度の取組結果報告と令和７年度の取組方針を説明した。（別紙参照）

別紙

	令和６年度取組結果	令和７年度取組方針
森林総合研究所等	１．コンプライアンス意識の浸透 ・ハラスメント防止研修（管理職員等向け）の実施 ・利益相反マネジメントに関する説明会 ・ハラスメント防止講話（林木育種センター） ・理事からのメッセージ発信 ・コンプライアンス標語の募集 ・ポスターの掲示 ２．コンプライアンス違反と思われる事項の相談、通報、事例の周知 ・職員からの相談対応 ・公益通報への対応（コンプライアンス推進委員会の開催、再発防止策の検討・実施） ・研究倫理研修「新たな研究不正「査読不正」について」 ・研究セキュリティ・インテグリティ研修「狙われる日本の技術」その手口と防止策」 ３．コンプライアンス意識調査の実施 ・回答の集計・分析を行うとともに、その結果を役職員に周知及び対応 ４．ハラスメントの未然防止 ・毎月一日、サイボウズに各種通報・相談窓口や公益通報処理規程などの説明を掲載	１．コンプライアンス意識の浸透 （１）教育・研修の実施 （２）コンプライアンス推進月間における意識の浸透 ２．コンプライアンス違反と思われる事項の相談、通報、事例の周知 （１）コンプライアンス違反事案の相談等 ・苦情相談窓口担当者等の対応向上のための研修の実施 （２）通報等窓口の周知継続 （３）事例の周知 ３．コンプライアンス意識調査の実施 役職員を対象にコンプライアンス意識調査を実施し、これまでの取組を通じた浸透度、成果、対象項目や職員等による意識差等、職員のコンプライアンス意識を明らかにし、今後の取組の検討に活用する。 ４．ハラスメントの未然防止 各職場内における打ち合わせ等を利用し、職員間の意思疎通を図り相談しやすい風通しの良い職場環境を作ること等、苦情

	・コンプライアンス・ハンドブックを活用し、コンプライアンス意識の向上を図った。 ・ハラスメント防止研修（管理職員等）及び理解度テストの実施 【公益通報　１件】	相談窓口の周知及び相談に対する適切な対応を図り、ハラスメントの未然防止に努める。 なお、コンプライアンス推進委員会に「ハラスメントへの対応に関する規程」に基づく申し立てがあった場合は、適切に対応する。
森林整備センター	１．コンプライアンス研修等の実施 ・コンプライアンス研修の実施 ・ハラスメント相談員向け研修 ・コンプライアンス自己診断 ・コンプライアンス理解度テスト ・理事からのメッセージ発信 ・コンプライアンス標語の募集 ・Web 開催のセミナー等への参加 ２．職場内ディスカッション ・コンプライアンス・ハンドブック、ニュースレター、危険予知確認表を活用して職場内で意見交換 ３．風通しの良い職場づくり ・職場内のコミュニケーションスキル向上、ハラスメント防止等の取り組み ・ハラスメントに関するアンケート調査 ・公益通報受付窓口(内･外部)等の周知	１．コンプライアンス研修等の実施 （１）外部講師等によるコンプライアンス研修の実施 （２）コンプライアンスの浸透・定着状況を把握するための自己診断の実施 （３）コンプライアンス意識向上のためのコンプライアンス研修等の実施 （４）外部機関によるコンプライアンスに関するセミナー等への積極的参加 ２．職場内ディスカッション （１）コンプライアンス・ハンドブックを用いて職場内学習を実施 （２）ニュースレターや新聞記事等のコンプライアンス違反事例をもとに意見交換を実施 （３）危険予知確認表を参考にコンプライアンスに抵触する具体例について議論 ３．風通しの良い職場づくり （１）コミュニケーション機会の確保、ハラスメントのない職場環境 （２）「公益通報受付窓口（内･外部)」「苦情相談窓口(内･外部)」の周知徹底

	４．職場毎の取組報告等 ・職場毎に上記１～３を目標としたうえで、四半期毎に結果を取りまとめ情報共有 ５．その他の取組 ・各地域で開催されるイベントへの積極的参加 ・カスタマーハラスメント対応方針の策定と開示 【公益通報　０件】	４．職場毎の取組報告等 職場毎に上記１～３を目標としたうえで、その結果を四半期毎に報告・共有 ５．カスタマーハラスメント対応 職員教育のための研修と周知
森林保険センター	１．コンプライアンス意識の強化 ・コンプライアンス研修の実施 ・コンプライアンス自己診断の実施 ・コンプライアンス理解度テストの実施 ・コンプライアンス標語の掲示 ２.コンプライアンス違反を未然に防ぐ風通しの良い組織づくり ・意見交換会の実施 ・危険予知活動実践表に基づく自己点検の実施 ・ハラスメントに関するアンケート調査 ・通報、相談窓口の周知 ３．社会貢献活動の取組 ・各種イベントへの参加及び主催 【公益通報　０件】	１．コンプライアンス意識の強化 （１）コンプライアンス研修の実施 （２）コンプライアンス行動規範に対する自己診断の実施 （３）コンプライアンス月間における意識の強化 ２．コンプライアンス違反を未然に防ぐ風通しの良い組織づくり （１）良好な職場環境づくり （２）コンプライアンス違反を未然に防ぐための取組 （３）公益通報制度及び苦情相談窓口の周知 ３．社会貢献活動の取組 参加可能なイベント等には積極的に参加し、森林保険の情報を積極的に発信

○総　括

各部門ともに計画に基づいて着実に取り組みを進めていただいた。今後の課題等については以下のとおり。

【ハラスメント対策】

・３部門共通の課題である。対策は非常に難しいが組織として積極的に取り組んでいく必要がある。
・整備センターがハラスメント相談員研修を今年実施、来年度、研究所等も実施を検討しており、部門間で横展開できればよい。
・研修等で相談員のスキルが上がることも大事だが、組織として対応している、ハラスメント対策に力を入れているということを職員に理解してもらうこともとても大切である。

【通報窓口の利用促進と通報者保護】

・公益通報に関しては公益通報者保護法改正案が閣議決定しており、通報のしやすさと同時に通報者が特定されないなど、通報者の保護についても十分な注意が必要である。

【研究インテグリティへの対応】

・研究分野はコンプライアンスの内容が高度化しており、それらへの対応が重要になっている。一方、コンプライアンス関連の研修は多数実施しており効率化の検討も必要ではないか。

部門ごとの取組については下記のとおり。

【森林総合研究所等】

・公益通報が１件発生、その対応に事務局は非常にご苦労された。この経験を時系列で整理し残しておくことで機構としての財産にして欲しい
委員会メンバーは本件でジャッジすることを経験したが非常に困難であった。外部委員から、大切なことは意見を出し合い、ディスカッションして決着に導くことというコメントをいただいており、今後もしっかりとディスカッションして様々なことに対応していければと思う。

【森林整備センター】

・直近の委員会は活発かつ実質的な意見交換ができて非常に良かった。 議論したことを来年度の取り組みに活かしていただきたい。
・機構の中で初めてカスタマーハラスメント対策を取り組んだ。ホームページに対応方針を掲載できたことは大きな資産である。
保険センター、研究所等もこれを参考に対応できるのではないか。
・ニュースレターに毎月コンプライアンス便りを載せており、各職場でのディスカッションの題材にもなっている。大変素晴らしい取組でありご苦労ではあるが今後も題材の提供に尽力願う。

【森林保険センター】

・直近の委員会でハラスメントだけでなく職場環境についてもかなり時間をかけてディスカッションでき、非常にいい機会となった。
是非、次年度の取り組みにつなげていただきたい。

Ⅰ－２

理　事　会　資　料
令和７年４月４日
総　合　調　整　室

令和７年度　機構会議等の日程について

このことについて、下記のとおり開催しますので、お知らせします。

記

開催日：令和７年５月 29 日（木）、30 日（金）

会　場：森林総合研究所大会議室 等

開催会議
- 産学官民・国際連携推進本部会議
- 機構会議
- 業績審査委員会(研究・育種)
- 地域情勢交換会議(支所・園長個別打合せ)

理　事　会　資　料
令和７年４月４日
林木育種センター

令和６年度の特定母樹の指定及び優良品種の開発について

１　特定母樹の指定

令和６年度に森林総合研究所林木育種センターが特定母樹として申請した２７系統について、農林水産大臣により指定を受けました。

樹種名	系統数	内　訳
スギ	２０	エリートツリー　１６　（関東 16）
		第二世代精英樹候補木　４　（東北４（山形県（2 件）、新潟県（2 件）との共同申請））
ヒノキ	５	エリートツリー　５　（九州５）
カラマツ	２	エリートツリー　２　（東北２）
合　計	２７	

注１：エリートツリーとはエリートツリー選抜実施要領第６条に基づき決定された第二世代以降の精英樹。
注２：内訳欄の（　）内は育種基本区別の系統数。

２　優良品種の開発

令和６年度に森林総合研究所林木育種センターでは、優良品種３４品種を開発しました。

品種の種別（樹種名及び種類）	育種基本区	品種数
気候変動適応性に優れた品種（耐乾性）（スギ）	東北	２
気候変動適応性に優れた品種（耐乾性）（スギ）	関西	１
気候変動適応性に優れた品種（耐乾性）（スギ）	九州	１
初期成長に優れた第二世代品種（スギ）	関東	１２
花粉症対策品種（無花粉スギ）	関東	４
花粉症対策品種（少花粉スギ）	関東	１
マツノザイセンチュウ抵抗性品種（クロマツ・第２世代）	九州	５
マツノザイセンチュウ抵抗性品種（クロマツ・第１世代）	関西	３
マツノザイセンチュウ抵抗性品種（リュウキュウマツ・第１世代）	九州	５
令和６年度開発実績数　合計 ※（　）書きは年度計画における開発目標数		３４ （３０）
第５期中長期計画期間における開発実績数　令和６年度までの累計 ※（　）書きは計画期間全体の開発目標数		１３６ （１５０）

【参考】

○令和６年度に指定された特定母樹の事例（エリートツリー）

＜樹　　種＞　スギ
<指定番号＞　特定 6-21
＜名　　称＞　スギ林育 2-288
＜樹　　令＞　26 年生（R6.3 月末）
<胸高直径＞　　16.5 cm（15 年次）
＜樹　　高＞　　14.0 m　（15 年次）
＜材　　積＞　0.154 m3（15 年次）

（参考）
対照個体(36 本)の平均値
<胸高直径＞　　12.7 cm（15 年次）
＜樹　　高＞　　10.9 m　（15 年次）
＜材　　積＞　0.081 m3（15 年次）

※写真は 27 年次撮影

＜樹　　種＞　ヒノキ
<指定番号＞　特定 6-11
＜名　　称＞　ヒノキ九育 2-126
＜樹　　令＞　55 年生（R6.3 月末）
<胸高直径＞　　23.0 cm（34 年次）
＜樹　　高＞　　15.0 m　（34 年次）
＜材　　積＞　0.309 m3（34 年次）

（参考）
対照個体(83 本)の平均値
<胸高直径＞　　14.8 cm（34 年次）
＜樹　　高＞　　12.7 m　（34 年次）
＜材　　積＞　0.126 m3（34 年次）

※写真は 55 年次撮影

＜樹　　種＞　カラマツ
<指定番号＞　特定 6-17
＜名　　称＞　カラマツ東育 2-72
＜樹　　令＞　47 年生（R6.3 月末）
<胸高直径＞　　8.2 cm（10 年次）
＜樹　　高＞　　6.0 m　（10 年次）
＜材　　積＞　0.019 m3（10 年次）

（参考）
対照個体(174 本)の平均値
<胸高直径＞　　5.4 cm（10 年次）
＜樹　　高＞　　4.5 m　（10 年次）
＜材　　積＞　0.008 m3（10 年次）

※写真は 47 年次撮影

特定母樹の指定状況（Ｈ２５年度～Ｒ６年度末）

樹種名	系統数	内　訳		
スギ	２６２	エリートツリー	１９２	（東北４５、関東７３、関西５６、九州１８）
		第一世代精英樹	２１	（東北９、九州１２）
		第二世代精英樹	１３	（東北１３）
		第二世代精英樹候補木	４	（東北４）
		花粉症対策品種	１０	（東北１、九州９）
		その他（第二世代雪害抵抗性品種候補木）	２２	（東北２２）
ヒノキ	７２	エリートツリー	７２	（関東２１、関西４１、九州１０）
カラマツ	９９	エリートツリー	９８	（北海道１、東北２５、関東７２）
		第二世代精英樹候補木	１	（北海道１）
グイマツ	１	第一世代精英樹	１	（北海道１）
トドマツ	３２	エリートツリー	２９	（北海道２９）
		第二世代精英樹候補木	３	（北海道３）
合　計	４６６			

注：間伐等特措法に基づく特定母樹の指定制度が導入された平成２５年度から令和６年度末までに、森林総合研究所林木育種センターにより申請（都道府県との共同申請を含む）がなされたもの。

○令和６年度に開発された優良品種の事例

左：初期成長に優れた第二世代品種　　スギ林育２－４０３
中：花粉症対策品種　少花粉スギ品種　スギ林育２－２７３
右：マツノザイセンチュウ抵抗性品種　沖縄（名護）リュウキュウマツ２号

理　事　会　資　料
令和７年４月４日
林木育種センター

令和６年度における林木遺伝子銀行 110 番の実施状況について

１．事業の概要

林木育種センターでは、林木遺伝資源の総合的な収集、管理、利用を目的とした林木ジーンバンク事業として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、所有者からの要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

具体的には、学校等の機関、個人等が所有する文化的価値が高い樹木が高齢等により衰弱している場合などで、これらの機関等から当センターに同一の遺伝子を受け継いだ後継クローン苗木の増殖の要請がなされ、さし木やつぎ木等によりこれら後継クローンを増殖するものです。

増殖したクローン苗木は、所有者のもとへ里帰りし、地域のシンボル等として親しまれているところです。また、これらのクローン苗木は、当センターで林木遺伝資源として保存し、研究材料として活用します。

２．里帰りの実績

令和６年度には新たに６件の申請を受入れ、11 件を里帰りさせました。当事業は平成 15 年度から開始されましたが、令和６年度末までに 266 件・349 点の里帰りが実施されました。

（参考）令和６年度の主な里帰り事例

「鬢垂のシダレグリ」（秋田県大仙市）　親木（左）と里帰りした後継樹（右）

シダレグリは、クリ栽培種の原種であるニホングリの変種の一つとされ、秋田県では他に自生していないため、この個体は学術的にも貴重であることから県の天然記念物に指定されている。樹齢が約 400 年に達し主幹の損傷と腐朽により樹勢が衰えてきたことから、令和４年４月に穂木を採取して増殖・養苗し、令和６年４月に３本の後継樹が里帰りした。

Ⅱ－１

令和７年４月理事会資料
国 立 研 究 開 発 法 人
森 林 研 究 ・ 整 備 機 構

今後の主な会議・行事予定について

日　付	研究	整備	保険	行　事　名	場　所　等
4月12日	○			市民のための科学技術週間イベント SCIENCE & TECHNOLOGY PRE EVENT 2025	つくばセンター広場（つくば駅周辺） （主催：つくばまちなかデザイン、ブース出展等：森林総合研究所）
4月16日		○		全国水源林造林協議会連合会　役員会	ルポール麹町（東京都千代田区） （主催：全国水源林造林協議会連合会、出席：森林整備センター）
4月18日	○			令和7年度(第66回)科学技術週間 森林総合研究所一般公開「春の森林講座」	森林総合研究所（つくば市） （主催：森林総合研究所）
4月23日	○			令和７年度近畿中国森林林業技術開発協議会	関西支所（主催：近畿中国森林管理局、関西支所）
5月10日～11日	○	○	○	第34回森と花の祭典－「みどりの感謝祭」併催行事「みどりとふれあうフェスティバル」	高尾599ミュージアム（東京都八王子市）（主催：林野庁ほか、ブース出展：森林研究・整備機構）
5月14日		○		全国水源林造林協議会連合会　総会	ルポール麹町（東京都千代田区） （主催：全国水源林造林協議会連合会、出席：森林整備センター）
5月20日～23日		○		会計検査院実地検査	宮崎水源林整備事務所 （実施：会計検査院）

令和７年４月理事会資料
国 立 研 究 開 発 法 人
森 林 研 究 ・ 整 備 機 構

主要行事（令和７年３月７日～令和７年４月３日）

月　日	行 事 内 容	出 席 者
3月7日(金)	【共】理事会	理事長、各理事、森林保険センター所長、両監事
〃	【共】茨城労働局くるみんプラス認定式	企画・総務・森林保険担当理事
12日(水)	【共】機構リスク管理委員会	理事長、各理事、森林保険センター所長、両監事
〃	【共】機構コンプライアンス合同報告会	理事長、企画・総務・森林保険担当理事、森林業務担当理事、法令遵守担当理事、両監事
〃	【共】不正防止計画推進委員会	企画・総務・森林保険担当理事、法令遵守担当理事
14日(金)	【共】情報セキュリティ委員会	企画・総務・森林保険担当理事、法令遵守担当理事
〃	【研】JIRCAS国際科学諮問委員会	研究担当理事
18日(火)	【研】IUFRO-J 2025年機関代表会議	理事長、研究担当理事
20日(木) ～23日(日)	【研】第136回日本森林学会大会	理事長、研究担当理事
24日(月)	【研】Japan Times 取材	理事長
〃	【研】日本ウッドデザイン協会理事会	理事長
〃	【研】国立環境研究所との定例会合	研究担当理事
25日(火)	【研】IUFRO前会長来訪対応	理事長、研究担当理事
26日(水)	【研】秘密情報保護ガイドラインに関する説明会	理事長、企画・総務・森林保険担当理事、研究担当理事
27日(木)	【研】水研機構との情報交換会	理事長、研究担当理事
4月1日(火)	【研】入所式	理事長、企画・総務・森林保険担当理事、研究担当理事、監事
4月2日(水)	【育】入所式	育種事業・森林バイオ担当理事

※【研】：森林総合研究所、【育】：林木育種センター、【整】：森林整備センター、【保】：森林保険センター、【共】：共通の行事の略

令和7年4月理事会資料
森林研究・整備機構
森林総合研究所

森林総合研究所が広報普及した主な研究成果等について

○ 前月以降公開済の研究成果

	広報タイトル	研究者・担当者名	掲載誌名	論文公開時期	備考
1	山の上の外来植物の組成は全国で似ていた	ｵﾔﾏ ｱｽｶ 小山 明日香 生物多様性・気候変動研究拠点	Global Ecology and Conservation	2024/11	
2	温暖化の緩和によって土砂災害を引き起こす豪雨は減少する	ﾂﾈﾀｶ ﾊﾙｶ 經隆 悠 森林防災研究領域	Earth Surface Processes and Landforms	2024/12	
3	ササの開花促進遺伝子は前年秋から活発化	ｷﾀﾑﾗ ｹｲｺ 北村 系子 北海道支所	Bamboo Journal	2025/02	
4	ヤチダモの道管を結ぶ通水孔を冬に塞ぐ物質の成分や発生過程を解明	ﾔﾏｷﾞｼ ｼｮｳﾍｲ 山岸 松平 木材加工・特性研究領域	Annals of Botany	2024/07	
5	二酸化炭素と酸素の混合ガスを使用することで桃剪定枝のガス化効率を向上	ｺｲﾄﾞ ｹﾝｼﾞ 小井土 賢二 木材加工・特性研究領域	Energy & Fuels	2024/09	
6	雪崩で堆積した雪中における音の伝わりやすさを解明	ｵｵｻﾜ ﾋｶﾙ 大澤 光 森林防災研究領域	Bulletin of Glaciological Research	2025/01	
7	チョウセンミネバリは最終氷期の生き残りか？ ―見過ごされてきた樹木の生態に迫る―	ｼﾀﾗ ﾀｸﾄ 設樂 拓人 多摩森林科学園	Ecological Research	2024/12	プレスリリース
8	スギ人工林による年間の炭素吸収量の将来予測 ―面積の縮小と高齢化が予想される人工林がネット・ゼロ社会を実現するためにできること―	ﾄﾘﾔﾏ ｼﾞｭﾝﾍﾟｲ 鳥山 淳平 九州支所	Journal of Environmental Management	2024/12	プレスリリース
9	木本と草本の個体呼吸と重量のスケーリング式の違いが明らかに	ﾆｼｿﾞﾉ ﾄﾓﾋﾛ 西園 朋広 森林管理研究領域	Proceedings of the Royal Society B	2025/01	プレスリリース

○ 最近のシンポジウム・イベント

	名称	担当	主催等	開催場所	開催日	備考
1	森林産業コミュニティ・ネットワーク(FICoN)第12回ウェブ検討会「国産広葉樹資源の家具・内装材への利用拡大に向けて」	森林総合研究所 FICoN事務局（企画部研究管理科）	森林産業コミュニティ・ネットワーク(FICoN) 森林総合研究所	Web形式	3月5日(水) 14:00～17:00	
2	第79回立田山森のセミナー「シイタケの原木栽培を体験してみよう！」	森林総合研究所 九州支所	森林総合研究所九州支所	九州支所	3月8日(土) 10:00～12:00	